



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

看護医療学部 教授

武田祐子

がんと遺伝 — 遺伝子によるがんの罹りやすさ —

「がん家系」という言葉を耳にするこ

とがあると思います。ご家族の中にがんと診断された方が複数いらつしやると、「私もがんになるのでは？」と心配される方も多いのではないのでしょうか。

がんは遺伝子の病気ともいわれ、遺伝子が何らかの原因で変化（変異）し、その積み重なりにより発症します。遺伝子変異が積み重ねられ、がんが発症するま

しれません。

一方、がんの数%は、生まれつきの遺伝子変異が深く関わっている「遺伝性のがん」といわれています。これは、がんという病気が遺伝するのではなく、がんに関わる遺伝子変異を親から受け継ぐことにより、がんの罹りやすさが遺伝することになります。また、生まれつき遺伝子変異をもっているもので、若くしてがんが発症しやすい状態といえます。

近年、遺伝子に関する知識・技術が急速に発展したことにより、こうした遺伝性のがんの原因となる遺伝子も特定され、診断にも活用されるようになってきました。がんに罹りやすい状態であり、若い年齢でがんが発症する確率が高いとすれば、一般に推奨されるがん検診とは別に、がんの早期発見のための検査を受けたり、発がんに影響するライフスタイルを整えたりすることが、健康を維持していく上

で重要なとなります。

慶應義塾

大学病院では、2001年から専門外来として「遺伝相談外来（現 臨床遺伝学センター外来）」が開設され、遺伝性のがんを心配される方や、その可能性が疑われる方の相談を行っています。完全予約制でお一人1時間30分の時間枠の中で、どのような事を心配されているのか、ゆつくりとお話を伺い、発がんリスクのアクセスメントを行い、遺伝性であるかどうかについて診断し、情報の提供をさせていただきます。必要に応じて遺伝子診断を行うこともあります。それぞれの状況に適した、がん予防や早期発見のための具体的方法について話し合います。がんは誰もが罹る可能性のある病気です。ご自身のことを知り、がん予防と早期発見に役立てていただきたいと思います。

